

## 令和3年度平戸市美術展覧会 審査講評

デザインの部

審査員氏名( 木下 伸弘 )

デザインの作品制作は、「描きたいものを描くこと」と「伝えたいことを描くこと」によって作品を制作します。

つまり、伝えたいことを如何にビジュアル化するかがデザインの醍醐味と言えます。

今年度のデザイン部門の出品点数は、一般5点。いずれも北松農業高校の生徒さんが「平戸」をテーマにしたポスターでした。

奨励賞の中川真心さんに「Hirado」の作品は、波を背景にして平戸大橋、つつじ、トビウオをうまく構成され、Hirado のレタリングもとても丁寧に仕上げられ作品でした。

小中学生の部では、小学生 20 点、中学生 28 点の出品がありました。

子どもたちの成長の段階で、美術的な表現技術と思考力の成長の過程を見て頂きました。

また、教育現場で、先生方の熱心なご指導の様子が子どもたちの作品を通じて伺うことができました。

長崎新聞社賞の濱本翔太郎くんの「環境ポスター クジラの疑問」は、昨今社会問題になっている海洋汚染について、クジラを主役とした表現で、とても親しみやすく説得力のある作品でした。

奨励賞の小島心葉さんの「愛鳥週間のポスター」は、「描きたいもの」と「伝えたいこと」の双方が、鳥の構成やレタリングの工夫などに制作意欲が伝わる作品でした。

同じく奨励賞の柳田紗蘭さんの「イカ」の作品は、版画の技法を使ってイカを表現した作品。大胆な画面構成や色彩の工夫は楽しいイカのイラストとして充実した作品でした。

他入選作品も中学生らしく、また、子どもらしい作風にとても好感がもてる作品でした。